自分育て

活動先：愛光園　知多地域障害者生活支援センター　らいふ
クラス：松下　典子　先生

1．自分の成長と気づき

サービスラーニングでの活動や学習全体を通して一番に、現場にでていくことの大切さを実感することができた。また今の NPO はまさに地域の人々が求める二ーズを形にしてきたものだと感じた。実際に現場で活動することで、いままで自分に見えてなかったことが見えてくるなど、現場で起きている問題は何なのかを考えるための重要な行動だと気づかされた。そして何よりも、自分が思う以上にこれまでどれほど周りに関心を向けられていなかったかということを気付かされた。

私は今まで、高齢者・障害者・こどもの分野では、ボランティアやヘルパー活動など、なんらかの形で関わりがあったが、障害児の分野には、興味はあったものの関わる機会をつくれずにいました。そんな中、サービスラーニングという活動があることを知り、サービスラーニングがどういうものかははっきりとわからぬままだったが、障害児と関わりたいというおもいを持ち、多くの活動先がある中で、主に日中一時支援を行っているらいふを選択した。

活動をはじめるまえに、まず個人で利用者さんの障害の基本的な性質など、最低限理解しておくべきことはしっかり理解したうえで、次にグループ全体で自分たちが行いたい活動と施設側が行いたいと思う活動、そして何より、利用者さん側がしてほしいことを、あわせて実現できるかなどを考え活動内容を築き上げ、実際に現場を訪れ活動をすることになった。

そうして活動を終えた後、多くのことを学んだ。たった 6 日間の活動でしたが、大人とは違い、遊び盛り・学び盛りのこどもたちに接することは想像以上に難しかった。自閉症や知的障害のこどもたちは障害の程度により、見た目においても接するにおいても、健常者と大きく変化はなく、障害があるなど忘れてしまうほどわかりにくい場合がある。そのため周りからの理解を築くにはとても時間がかかる。私は 6 日間の活動を終えたころに、ようやく接し方や特性などがすこしであるが理解できたほどである。事前に学習をしていてもこのように難しいことを改めて感じさせられた。らいふにきているこどもたちは彼ら同士の関わりを楽しむことが得意ではなかった。そんな中、「ひとりでできた！」だけでなく「みんなでできた！」を実感してほしく、活動内容を考えた。

6 日間という短い期間で、どのように活動していくかなど、事前に心構えをしていたので、活動に対して緊張はあまりなかった。しかしいざ活動先でこどもたちに関わろうとすると、初めて会うこどもと接することにしばらく慣れるまでの間、不安や戸惑いを感じてしまうことが多くあった。初対面の方と突然接することで、こどもたち自身も同じ不安や戸惑いを感じていることを、活動中意識できず、自分ばかりどのように接すればいいのかばかり考えていた。大人とは違い、多感なこどもたちにはより敏感に相手の気持ちが伝わ

ってしまうことを感じた。

サービスラーニングでは、自分の活動先以外の様子もうかがうことができました。NPO全体が何を問題にしているのか、分野が違っても抱えている問題はつながっていることにも気づかされた。仲間と活動をしていくうえで、先生や活動先の方々から多くのヒントをいただき、自分たちなりに１から活動をつくり上げていくことは、何をしたらいいか、何から考え始めればいいのか手探りで、とても戸惑うことが多くあった。

しかし協力し合い学びあうことで、意見を言い合えるようになり、自分の中での考えも確立していくことができた。さらに活動を終えて、実際に現場に出ることの大切さを強く感じることができました。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

らいふでは、障害を持つこどもの居場所づくりをし、一人一人の個性に合わせた付き合いを大切にしており、自立課題というものを通して「できた！」という自信を自分のものにしてもらうねらいがある。また、母親の仕事時間の確保や、休暇を確保するためのサポートをする役割も担っている。活動を通して、ただこともたちに接し見守るだけでなく、こどもたちの親さん同士の交流や地域での行事参加に、まずは「らいふ」というグループとして参加する機会をつくれば、子供たち自身、また家族全体での活動の範囲や視野が広がっていくきっかけに繋がると感じた。

障害のあるなしに関わらず、お互いの関係性を築くには時間をかけていろいろと試しながら関わっていくことが大切なことを忘れず根気よく活動範囲を広げてあげることが大切だと考えた。そしてサービスラーニングとして活動を行うことで、利用者も地域の人も、サービスやニーズが異なる中、それぞれの市町村でどのように対応しているか、またパーソナルケアとして実際に何が行われているか考えるきっかけになった。

地域の中で必ずしも一人では生きていけないことを感じ、対象とするもの・人と繋がってこそ自分が育てられることをこの１年間で強く実感した。すべての活動を終え、与えられた期間の中で､現場にでるための事前･事後学習をどのように進めていくかを重要視し、この先チャレンジ精神を持ち続け、何事も挑戦することを思い行動していこうと考えさせられるなど、ボランティアでも実習でもないこの機会を通して得たものは計り知れない。